



子どもたちの可能性を信じて～リーダーシップを育てる～ 副校長 中塩 百合

新緑が目に見え鮮やかな季節となりました。4月当初の緊張が和らいだ子どもたちの表情には、学校生活への活気が溢れています。



先週より各学年で親睦を深める遠足が行われています。4年生は3年生と共に「こどもの国」でオリエンテーリングに挑戦しました。皆様ご存知の通り、「こどもの国」は上皇陛下と上皇后陛下のご成婚を記念して開園した歴史ある公園です。広大な雑木林を散策しながら、115mもあるローラー滑り台で歓声をあげ、動物たちと触れ合う心温まる一日となりました。4年生にとっては、ファーストステージリーダーとしての初仕事でもあり、声掛けを工夫し、先を見通して指示を出す難しさに直面しながらも、失敗を糧に皆で協力して活動する姿が見られました。

本校では4-4-4制を軸に、従来の6-3-3制の区分も活かしたハイブリッドな体制を敷いており、リーダーシップをとる機会が多くあります。例えば、4年生は運動会で6年生から学んだ姿勢を、別の場面では下級生を導くファーストステージリーダーとして実践します。同様に、6年生はセカンドステージリーダーの8年生から学び、それを初等科のリーダーとして還元します。4、6、8、9、12年と立場が変わるごとに学びの視点は深まり、多層的なリーダーシップが養われています。

昨今、子どもたちからは、「ぐいぐい引っ張るよりも、話をよく聞いてまとめてくれるリーダーが理想」との声が多く聞かれます。これは、対話を重視する現代社会のあり方と合致すると同時に、イエス・キリストの教えに通じるものです。聖書には「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となり、一番上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。」(マルコによる福音書 10章)とあります。児童会役員の立候補演説で、多くの子どもたちが、「自分の力を皆さんのために使いたい」「役に立つことが喜びにつながる」と語っていた姿と重なります。私はどのようなリーダー像であっても、その根底に欠かせないのは「自立」であると伝えています。自分のなすべき事を責任をもって行える自立した人が、他者のために力を尽くせると考えるからです。そこに自分を律する「自律」が加われば、さらに頼もしい存在になるでしょう。



聖心の卒業生の特徴として、多くの方に「気配り」「自立心」「リーダーシップ」を評価していただきます。こうした自立心に伴うリーダーシップの育成は、本校が大切にしてきた教育の伝統と言えるかもしれません。学校生活の中には、チームで協力して目標を達成する場面や、小さな経験を積んでいく機会が数多くあります。創立者を記念して行われる運動会において、企画・運営に主体的に携わる6年生の姿は、下級生にとって素晴らしい手本となることでしょう。私たち大人が聞き役に回る、先回りせずに子ども自身に決断させる。こうした姿を大切に、ご家庭とも歩調を合わせながら、この一年も子どもたちの無限の可能性を信じて、その成長を支えて参りたいと存じます。

人が聞き役に回る、先回りせずに子ども自身に決断させる。こうした姿を大切に、ご家庭とも歩調を合わせながら、この一年も子どもたちの無限の可能性を信じて、その成長を支えて参りたいと存じます。

苦手なことと向き合う



新たな学年、クラスで学校生活がスタートしてから一ヶ月が経とうとしています。子ども達は今年度の学校目標、学年目標のもとで自分の個人目標を決め、気持ちも新たに日々色々なことに挑戦しています。

子ども達の目標を見ていくと、二種類の目標の立て方があることに気づきます。一つ目は「苦手を克服すること」、二つ目は「好き、得意を伸ばすこと」です。どちらも目標を立てるために大切な視点ですが、子どもにとってはどちらが取り組みやすいかと言えば明らかに後者です。好きなこと、得意なことは個性を伸ばすため、興味関心を広げるために大切です。苦手を克服することは、苦しいことに立ち向かう姿勢や課題解決の力を身につけるために大切です。

しかしどちらも大切と言いつつ、子ども達が好きなこと・得意なことはひとまず置いておいて苦手克服に向けて一心に努力している姿は良く見えても、苦手なことを放置して好きなこと・得意なことだけに一心に向き合っている姿は、あまり良く見えない方も多いのではないのでしょうか。それは、苦手なことに向き合うことの方が、社会で必要な逞しい心を育む可能性をより秘めているからではないかと考えています。

子ども達にとっては学校が主な「社会の場」になります。社会で生きていく中で、好きなこと、やりたいことだけに包まれて過ごしていくことはなかなか難しいことです。思っていたことと違うこと、すぐには上手くいかないこと、先の見通しがなく不安なことが大なり小なりあります。しかし、そういったことが生活の中で多くある中、いつも心を前向きに解決の道を探っていくような逞しい心を持って欲しい。それが子ども達を見守る大人達の共通の願いではないでしょうか。

ではどうやって苦手と向き合えるようになっていけるのか。それは、子ども達が苦手に向き合う中で楽しさや安心感、小さな達成感を感じることができるようになることです。これは子ども自身が努力して自ら感じ取れるようになることもありますが、多くの場合大人のサポートが必要になってきます。意欲の面で躓いている場合は、励ましが必要になります。解決方法の面で躓いている場合は、方法を示してあげることが必要になります。なかなか改善が見られない場合でも、小さな進歩・変化を大人が見つけ出し、本人に示してあげることで意欲に繋がっていきます。成果を感じることで子どもは意欲を保ちやすくなります。こうしたサポートを低学年のうちから積み重ねていく中で、少しずつ子ども達の中で苦手なことに向き合う耐性がついていきます。

こういったサポートは全て「言葉」によって子どもに伝えられていきます。子ども達それぞれに響く言葉というのは、決まったものではありません。その時の状況、子ども本人の性格や心の状態に寄っても変わります。子どもが何事にも前向きになれる言葉、大人が寄り添っていると感じさせる言葉を大切に選びながら、子ども達が聖心生らしく粘り強く目標に向かって成長していく後押しをしていきたいと思えます。



5月の行事予定

| | | | |
|--------|---------------|--------|-----------------|
| 1日(金) | 5・6年生遠足 | 14日(木) | 運動会総練習(1～4限) |
| 3日(日) | 憲法記念日 | 20日(水) | 聖心会総長訪問 |
| 4日(月) | みどりの日 | | 聖マグダレナ・ソフィアお祈り会 |
| 5日(火) | こどもの日 | 22日(金) | 運動会準備(午後) |
| 6日(水) | 振替休日 | 23日(土) | 運動会 |
| 7日(木) | 月曜時間割 | 24日(日) | (雨天予備日) |
| | 運動会全体練習(3～4限) | 25日(月) | 聖マグダレナ・ソフィア祝日 |
| 8日(金) | 4年保護者会 | | 運動会代休(雨天予備日) |
| 11日(月) | 1年・転入・編入保護者会 | 29日(金) | 聖母戴冠式朝礼(1～6年) |
| 13日(水) | 泉の会代表幹事会 | 30日(土) | 保護者後援会幹事会 |

5月の聖母月は、帰りの会で一日の振り返りを行い、アヴェ・マリアの祈りと共にマリア様にお捧げ致します。一ヶ月間、祈り続け花冠にして、5月末の聖母戴冠式に捧げます。